

碧南市青少年育成市民会議だより

ふれあい

編集発行
碧南市青少年育成市民会議
碧南市源氏神明町4
TEL (0566) 42-3511

碧南市青少年育成モデル地区 青少年育成鷺塚地区推進委員会

ふれあいと対話が築く地域の輪

令和2年度の碧南市青少年育成モデル地区は鷺塚地区です。

青少年育成鷺塚地区推進委員会は、地区連絡委員を始め各団体の代表者、学校関係者等総勢31名で組織しています。地域のふれあいの輪を広げ、笑顔のあふれる青少年の健やかな成長を願って、4名の青少年育成推進員を中心にさまざまな行事を行っています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、多くのイベントが中止になってしまいました。毎年、たくさんの参加者で賑っていたので、本当に残念です。

しかしながら、このような逆風の中にもかかわらず、8月28日に「こども110番の家講習会」を無事に開催できたことは、大きな励みになりました。

《昔のあそびあれこれ》

鷺塚地区では、毎年6月の最終日曜日に「昔のあそびあれこれ」という行事を開催しています。

鷺塚小学校の児童が、竹馬や竹とんぼづくりに挑戦したり、水鉄砲やスイカ割りを、スタッフと一緒に楽しんでいます。東中学校ボランティアの皆さんも、元気にお手伝いをしてくれます。

(写真は、昨年の様子です。)

※今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため中止しました。



《春のうきうき社会見学》

毎年5月に鷺塚小学校の児童と保護者を対象に、社会見学を開催しています。バス2台に分乗し、愛知県内の博物館などを見学します。

(写真はリニア・鉄道館です。)

※今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため中止となりました。



◎今後の予定

- 11月 8日(日) 花いっぱい運動
- 12月31日(木) 年末年始愛のパトロール
- 2月19日(金) 青少年育成鷺塚地区推進委員会

青少年育成推進員の活動

碧南市では、各地区に青少年育成推進員を4名ずつ任命しています。その推進員を中心に青少年育成地区推進委員会を設置し、親子のふれあい行事、体験活動を実施しています。その中で、親子のふれあい、地域の人々と子どもたちとの交流を深めています。また、中学生ボランティアが積極的に参加し地域の方々との協働事業を進め、地域に根付いた子どもたちの育成にも一役を担っています。

今年は、コロナ禍のため、例年各地区で計画しているイベントがほとんどできません。早く新型コロナが収束し、地域の絆が深められる行事が進められることを願っています。

※写真は過去のものを使っています。



日進 ふれあいデイキャンプ



新川 クリーン大作戦



中央 ふれあい子どもクッキング



西端 食品サンプルづくり

小中学校にマスクケースを寄贈しました 大浜・棚尾地区



8月27日(休) 大浜地区、棚尾地区の青少年育成推進委員会が地元の南中学校、大浜小学校、棚尾小学校の全児童生徒及び教職員にマスクケースを寄贈しました。

新型コロナウイルスの影響を受ける中、短縮された夏休みも終わり、8月24日(月)に二学期がスタートしました。感染防止のため、ほとんどの児童生徒がマスクをしています。熱中症にも配慮する中、マスクの着脱をこまめにする必要があります、そんな時、マスクケースが有効に活用されています。

鷺塚地区「こども110番の家」講習会

8月28日(金) 今年度の青少年育成モデル地区である鷺塚地区で、こども110番の家の代表者の方々にご参加いただき、「こども110番の家」講習会を開催しました。



昨年5月に川崎で登校時に小学生が突然襲われ死亡した事件がありました。通り魔的な犯罪から子どもたちを守るためには、地域ぐるみで守ることが大切です。そこで、警察署等で委嘱された「こども110番の家」の活用を見直そうという動きになりました。碧南市内には警察から委嘱を受けた家と商店街連盟が取り組んでいる家とでおよそ350軒あります。そのうち鷺塚地区には60軒ほどの登録があります。

講習会では、110番の家に登録されている方々にご参加いただき、碧南警察署生活安全課長様からご講話をいただきました。「こども110番の家」の役割を話していただくとともに、いざ子どもが駆け込んできた

ら、「どう対応したらよいか」「話の聞きとり方」「110番への通報」など具体的に教えていただきました。

青少年育成推進員による寸劇を通して、対応の仕方などの復習もしました。

今後は、こども110番の家のマップを地区ごとに作成し学校で活用していただくと考えています。

学校や警察とともに、地域ぐるみで防犯活動に取り組み、子どもたちの安全・安心を図っていきます。



青少年育成市民会議の主な活動

青少年育成市民会議では、市民総ぐるみで青少年の健全育成が図れるように啓発活動をし、親と子のふれあいや地域のおとなと子どものふれあいに焦点をあて、活動を進めています。親子キャッチ575では、毎年4000点ほどの作品が集まります。また、青少年育成県民会議が主催する「青少年によい本を進める運動」や「青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動」「家庭の日県民運動」にも協賛し積極的に取り組んでいます。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、多くのイベントが中止となりました。そのため、例年行っている元気ッス！へきなんでの啓発活動など実施できませんでしたが、「コロナに負けるな」の思いを込めて、啓発品をマスクケースにして夏の運動を展開しました。



青少年とともにすすむ夏の運動

強調月間／7月1日～8月31日

県の推進する「青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動」と連携し、学校や保護司、民生委員の方々とともに「非行の芽 早めにつもう みな我が子」をスローガンに「夏の運動」を展開しました。

- 啓発品「マスクケース」を各施設で配布
- 夏休み期間中における児童・生徒への生活指導
- 青少年の非行防止と事故防止のためのパトロール

今年は、啓発品として「マスクケース」を配布し、新型コロナウイルス感染防止も図りました。



啓発品「マスクケース」

「親子キャッチ575」

募集期間／ 7月1日～9月1日

表彰式／11月7日(土)

「家族の絆」「地域の絆」「命の大切さ」「人への思いやり」をテーマに親子で川柳にして、気持ちを伝え合う事業です。今年は、新型コロナウイルスの影響で、春先に休校が3か月ほど続き、長期間外出を控えて家庭で過ごす日々が続きました。また、夏休みも短縮され、今までとは異なる生活を強いられています。その間の想いも込めた作品を募集しました。

日頃とは違った生活感のあふれる作品が集まりました。毎年、優秀作品を作品集にまとめ、文化会館で配布しています。現在、昨年度の作品集を展示しています。今年度の作品集は、表彰式後から配布する予定です。



昨年度の作品集

青少年によい本をすすめる運動

～育てよう 豊かな心 読書から～

強調月間 10月1日～10月31日

読書好きな子は、読書好きの家庭から

良い本との出会いは、心を動かし、受身ではなく自らのこととしてさまざまな内容に向き合うことで、心の幅が広がり思考力が育ちます。

絵本、読み聞かせ等、子どもの実態に合わせ、本との出会いの機会、読書環境を大切にしましょう。

<その他の主な活動>

- 機関誌「ふれあい」の発行…………… (10月、3月)
- 元気ッス！へきなん、きらきらウォークでの啓発活動…………… (7月、12月)
- 青少年とともにすすむ冬の運動…………… (12月1日～1月10日)
- 「家庭の日」運動の実施 強調月間 …………… (2月1日～2月28日)
- 毎月第3日曜日の「家庭の日」啓発推進

親の背中

主任児童委員

高木 真悠美

「子どもは親の背中を見て育つ」と言われます。毎日子どもの行動を見ていると「はっ」とか「あ～私に似てる」と思う時が多くあります。

しかし、子育て現役の私は朝から大忙し。朝食を作り子どもの身支度をしていると、あっという間に時間は過ぎ、自分のことも家のこともそこそこに仕事に出かけます。ゆっくりする時間の余裕もなく、毎日がヘトヘトです。そんな毎日だとイライラもたまり、子どもにきつく接してしまい反省します。

全てが完璧にはできません。完璧にはできないけど良いお母さんでもありたい。何が正解で何が良い子か、何が普通なのか分かりません。子どもは言うことなんて聞きません。でも子どもは家庭の中で見て感じて経験して自分なりに考えていると思います。良いことも悪いことも親の背中を見ています。そして、その背中から学んだ姿を正しいと思ったり、反面教師にしたりしながら成長していると信じたいです。

お母さんが元気で笑顔で毎日が送れると子どもも笑顔になります。たまには「まっ、いっか」と手抜きをし、私も試行錯誤しながら親として成長していきたいです。

頑張るお母さんたち。頑張りすぎずに一緒に頑張りましょう。



大人のすてきな気づきとの出会い

おやじの会連絡会

磯貝 雅樹

ある幼稚園の保護者への「宿題」。大人のすてきな気づきに出会ったのでご紹介したい。

- 「ありがとう」を言っていたら、子どもの口から「ありがとう」が自然に出るようになった。
- 手をつないで出かけると、小さなことにたくさん気づいて会話が増えました。
- 抱きしめて話を聞くと、心の奥にしまっていたことも話してくれました。
- 私の目をまっすぐ見て話しかけていたのね。胸がいっぱいになりました。
- 「聞いてもらえる」と感じると安心した表情になっていました。
- 注目されると嬉しそう。自信をもって話すことが増えていく。
- 「本当は〇〇したかったんだね」と失敗を叱らず受け止めると挑戦する気持ちになる。
- 悲しいこと、つらいことに共感してあげられると、気持ちがさっと切り替わる。
- 抱っこして絵本を読むと、心が満たされているみたい。
- 生まれた時のことを話すと、親子で優しい気持ちになる。
- ついついカーッとになったら、一呼吸おこう。
- 「ありがとう」その一言は、子どもの自信になる言葉。

好きなフレーズや共感した気づきがあれば、それはすでに「大人が変われば・・・」の入口なのです。

言葉の選び方

碧南市小中学校生徒主事・主任会

安江 元希

ある日、息子の保育園の迎えに行った時のことです。「〇〇ちゃんはもうやっているよ。〇〇くんもやるっか。」というやり取りが聞こえてきました。よくある光景です。

しかし、この言葉に違和感を覚えました。確かに集団行動を学ぶ意味では大切ですが、個人の判断はどこへ行くのでしょうか。「みんなやっている」は本来その子どもがとる理由にはなりません。そんなやりとりを家庭、保育園、学校、職場、社会全体のありとあら

ゆる場面で繰り返し聞かされると、いつの間にか行動する理由が、「みんながやっているから」になります。

私は現在6年生を担当しています。6年生は大人の言葉や姿勢、態度を見て、多くのことを学んでいく大切な時期です。

子どもたちには、状況を見て、目的や意味を見つけ出し、自らの判断で行動できる大人になってほしい。皆がやっているからではなく、自分の意志と判断で動けるようになってほしいと思っています。だからこそ、私自身も言葉の選び方や伝え方を意識しなければと思うのです。

子どもは大人の鏡とよく言われます。私たち大人が、意識を変えていくことで、子どもの未来は大きく変わるのではないのでしょうか。